

山岳白書

平成27年中の北アルプス登山者と遭難事故のまとめ



写真：北飛山岳救助隊 堀畑 浩二

岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会

はじめに



岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会
会長 國島芳明

「岐阜県北アルプス地区における山岳遭難の防止に関する条例」による、北アルプス（飛騨山脈）での登山届の提出が義務化されてから1年が過ぎ、さらに、条例改正により昨年4月1日からは、活火山（御嶽山及び焼岳の一部）の登山届の提出も義務化されました。山岳遭難者の早期救助などを目的とした、登山届の提出義務化が盛り込まれた条例の制定や制度の周知・運用にあたり、ご尽力賜りました岐阜県や岐阜県警をはじめ関係各位の皆様にご礼を申し上げます。

昨年の北アルプス（飛騨山脈）岐阜県側の登山者数は、過去最高だった一昨年よりも1万人近く増え、5万1千人を超えました。登山が多くの方に浸透し、より身近なものになってきていると感じております。

昨年、北アルプス（飛騨山脈）岐阜県側における遭難事故は42件で、過去5年間では最も少ない件数となりました。遭難事故により7名の尊い命が失われており、亡くなられた方に謹んで哀悼の意を表する次第であります。

また、遭難事故における遭難者数50人のうち、40人が40歳以上の中高年層の遭難者で、80パーセントを占めている状況であります。

遭難者の登山届の提出率は73.8%で、未提出の登山者が3割近くいる現実があります。全国各地から日本の屋根「北アルプス（飛騨山脈）」に、希望と憧れを持って訪れていただく多くの登山者に対して、登山には悲惨な遭難事故も隣り合わせであることを今一度認識していただく必要があります。万が一の際の安全で迅速な救助活動のため、確実に登山届の提出をしていただくよう周知徹底を関係機関とともに図ってまいります。

今年から8月11日が「山の日」として国民の祝日になります。この機会をとらえて、登山愛好者やこれから登山を始める方々に、北アルプス（飛騨山脈）の山々や大自然の魅力を紹介するとともに、登山届を提出する重要性と必要性を周知するなど、安全かつ安心して快適な登山を楽しんでいただけるよう努めてまいります。

今後とも、関係の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

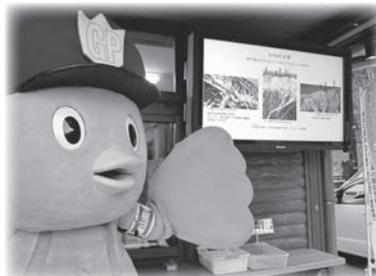
平成28年3月

目 次

第1	登山者の状況	
1	登山者数と過去10年間の推移	1
2	シーズン別及び年齢別等登山者数の状況	2
第2	山岳遭難事故の状況	
1	遭難事故の状況と特徴的傾向	3
2	過去10年間の発生状況	4
3	月別発生状況	4
4	山岳別発生状況	5
5	原因別・遭難者の性別発生状況	5
6	遭難者の山岳会所属状況	6
7	登山届の提出状況	6
8	遭難パーティーの人数構成状況	6
9	遭難者の年齢別状況	7
10	遭難事故の届出状況	7
11	遭難者の職業別状況	8
第3	山岳警備活動の状況	
1	山岳警備活動の概況	8
2	安全登山指導活動の状況	8
3	山岳遭難救助活動の状況	9
4	ヘリコプターの活用状況	11
5	山岳遭難救助訓練の状況	12
6	広報活動等の状況	13
7	手記	14
第4	岐阜県山岳遭難防止条例	
1	登山届提出義務化	17
2	条例に関する問い合わせ先	17

別表1 平成27年・山岳遭難事発生一覧表

別表2 平成27年・山岳遭難事故発生分布図



第1 登山者の状況

1 登山者数と過去10年間の推移

平成27年中の登山届による岐阜県側からの北アルプスへの登山者は、

25,770パーティー、51,823人

を数え、統計を取り始めて最も多かった前年より、パーティー数では、6,689パーティー(35.1%)増加、登山者数についても9,651人(22.9%)と、過去最高を記録した。

また、このうち単独登山者は、

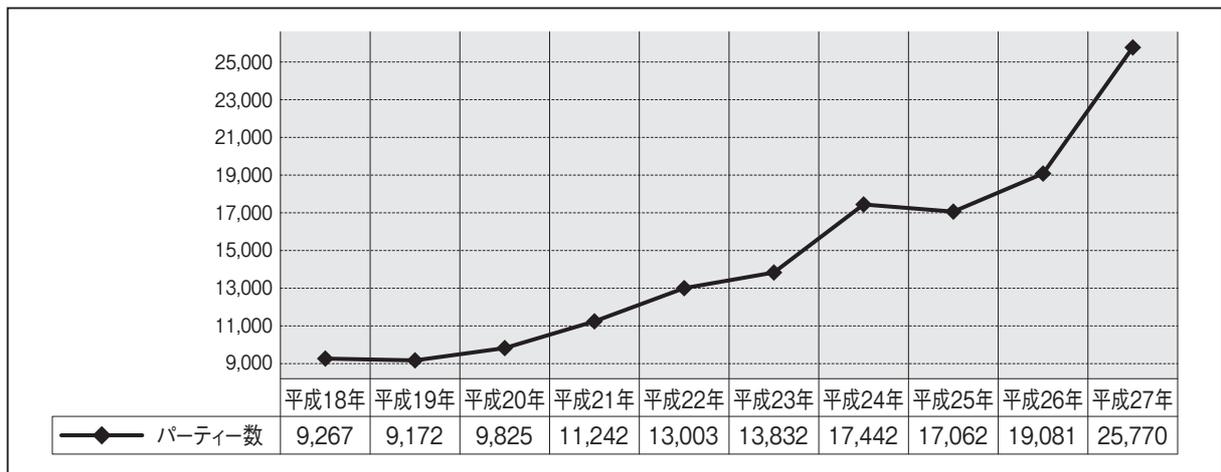
14,091人(前年比+5,722人)

となり、単独登山者数も過去最高を数え、登山者全体に占める割合は27.1%となった。

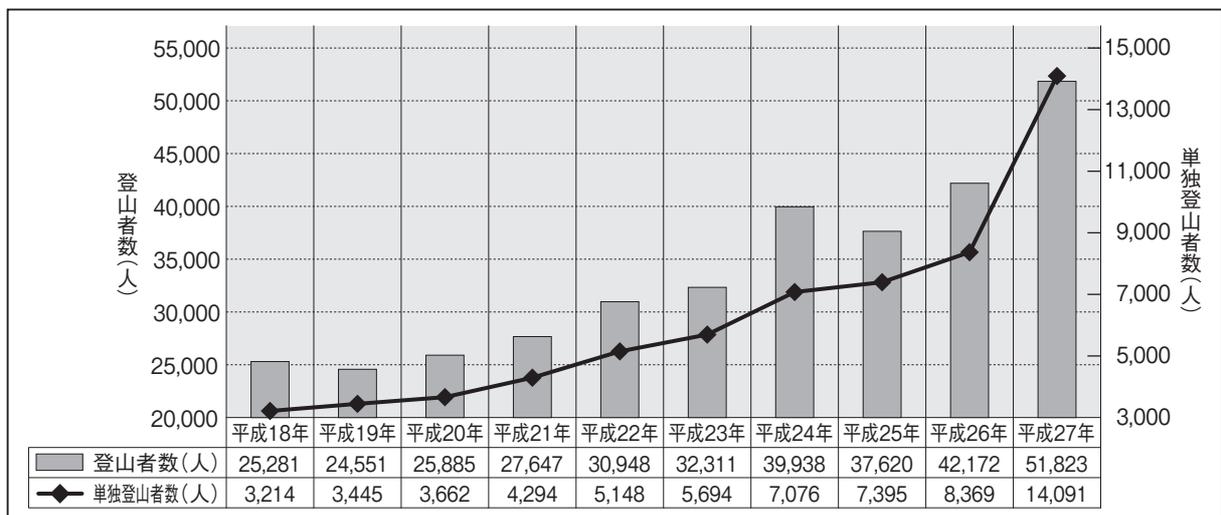
岐阜県では「岐阜県北アルプス地区及び活火山地区における山岳遭難の防止に関する条例」を施行後はじめて年間を通じての運用となり、条例に沿って提出する人が増加したと思われる。

また、シルバーウィーク初日(9月19日)は1日の入山者数が最も多かった。

【パーティー数の推移】



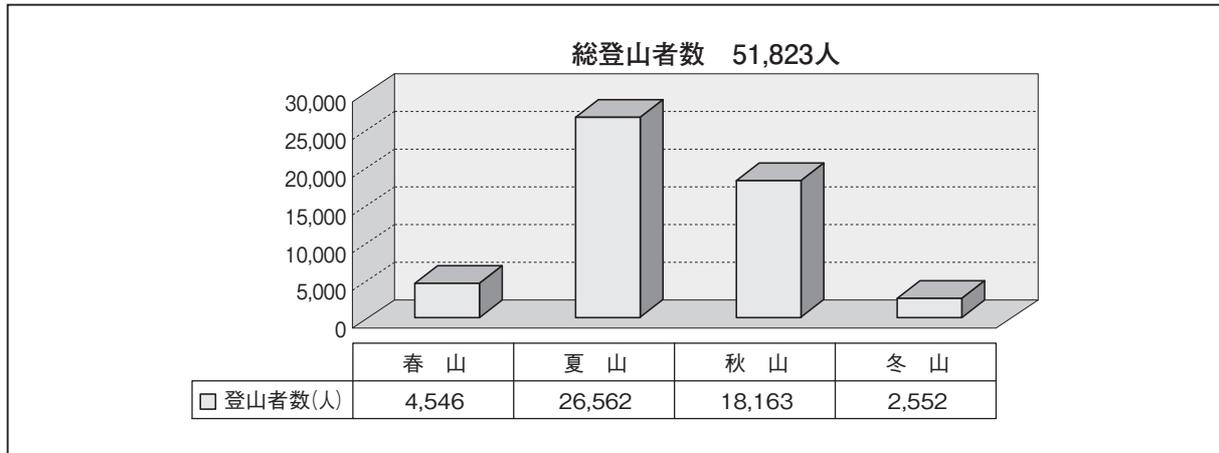
【登山者数の推移】



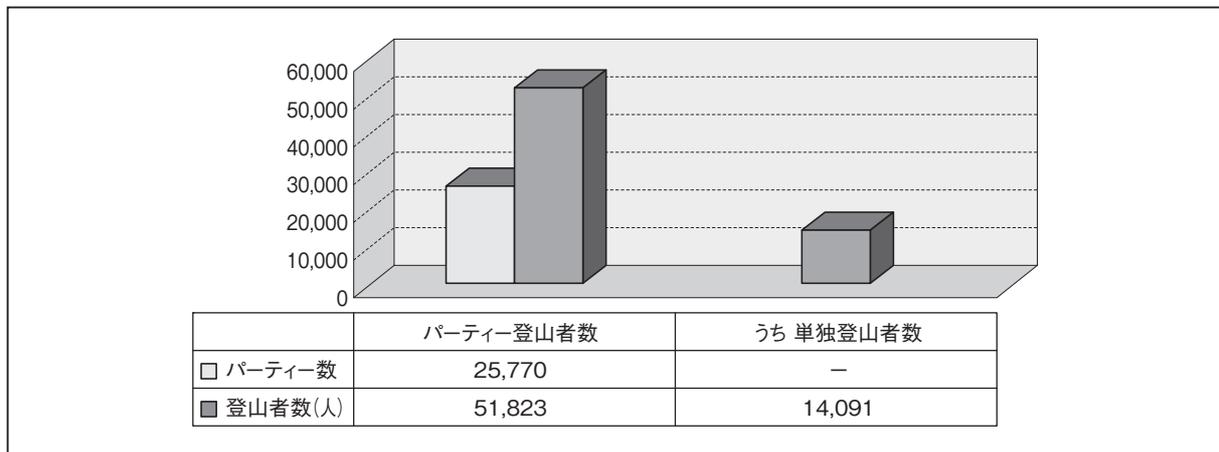
注・パーティー数、登山者数は提出された登山届による。

2 シーズン別及び年齢別等登山者数の状況

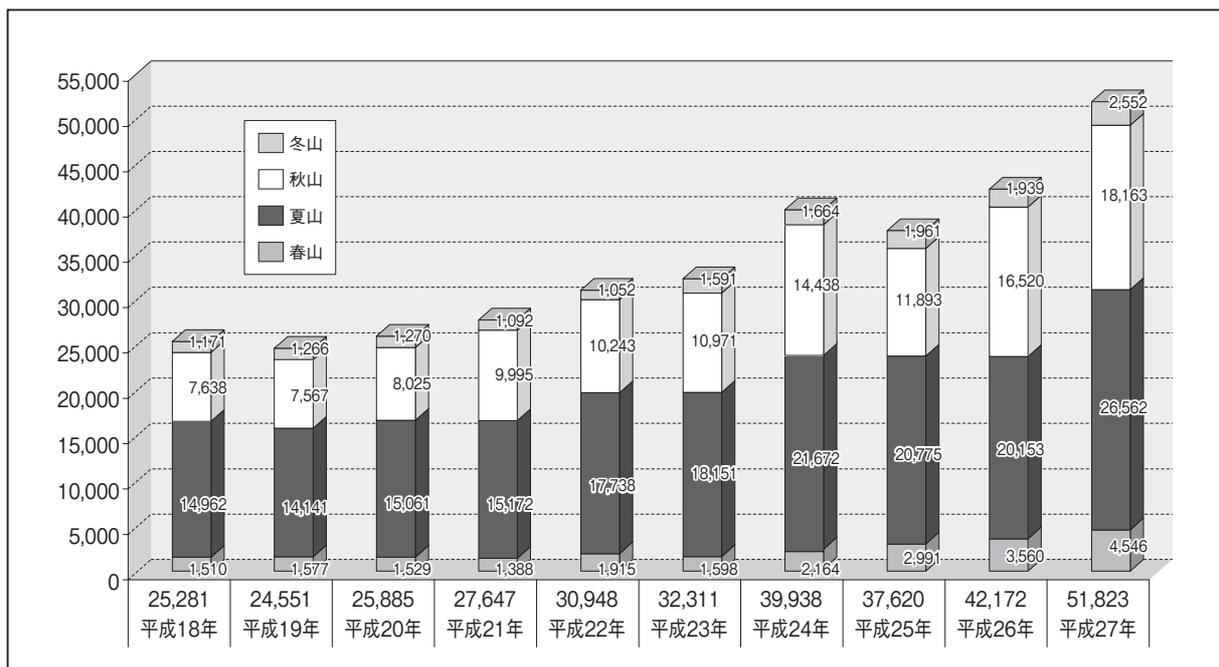
【シーズン別登山者数】



【パーティー・単独登山者別】



【過去10年間の推移】



【年齢別・シーズン別登山者の状況】

(人)

	20未満	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	不詳
春山期間中	35	317	858	1,108	867	620	150	591
夏山期間中	2,013	1,894	3,612	4,679	4,396	4,349	1,362	4,257
秋山期間中	335	1,158	2,874	3,820	3,296	3,184	859	2,637
冬山期間中	27	235	576	683	461	255	44	271
合計	2,410	3,604	7,920	10,290	9,020	8,408	2,415	7,756
中高年別	13,934人(26.9%)			30,133(58.1%)				(15.0%)
総合計	51,823人							

第2 山岳遭難事故の状況

1 遭難事故の状況と特徴的傾向

平成27年中の遭難事故は、

発生件数42件(前年比-9件)、遭難者数50人(前年比-20人)

となった。

遭難者の内訳は、

死者7人、負傷者25人、無事救出者18人

となった。

遭難事故の特徴としては、

- 遭難者50人のうち40人(80.0%)が、40歳以上の中高年層であった。
- 70歳以上で11(22.0%)人も発生している。
- 遭難者における男性の割合が40人(80.0%)と高い。
- 単独や2人パーティーの遭難事故が21件(50.0%)と半数となった。
- 未組織登山者によるもの29件(69.0%)と高い比率を占めた。
- 42件のうち11件(26.1%)が登山届未提出であった。

区分	年別	平成27年	平成26年	増減数	増減率(%)
発生件数(件)		42	51	-9	-17.6
遭難者数(人)		50	70	-20	-28.5
内訳	死亡	7	15	-8	-53.3
	行方不明	0	1	-1	-100.0
	負傷	25	31	-6	-19.3
	無事救出	18	23	-5	-21.7

平成27年中に発生した山岳遭難事故の概要は、別表1「平成27年遭難事故発生一覧表」及び別表2「平成27年山岳遭難事故発生分布図」のとおりである。

2 過去10年間の発生状況

平成27年中は、発生件数42件遭難者数50人となり、過去5年間では最も少ない発生件数となった。

区 分	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
発生件数(件)	46	48	40	40	44	51	43	52	51	42	
遭難者数(人)	56	62	49	45	56	61	53	64	70	50	
内 訳	死亡	14	8	5	12	3	5	9	9	15	7
	行方不明	1	0	1	1	2	0	0	1	1	0
	負傷	24	27	23	17	27	25	30	34	31	25
	無事救出	17	27	20	15	24	31	14	20	23	18

3 月別発生状況

多発傾向にあるゴールデンウィーク中の発生が無く、登山者が多い8月に多発したが、近年は9月も多発傾向にある。



区 分	季節別 月 別	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)				計
			死 亡	行方不明	負 傷	無事救出	
冬 山	1月	3	1		2		3
	2月	1			1		1
春 山	3月	1	1			2	3
	4月	2	1		1	1	3
	5月						
夏 山	6月						
	7月	6			3	5	8
	8月	18	1		14	5	20
秋 山	9月	7	2		3	3	8
	10月	3	1		1	1	3
	11月						
冬 山	12月	1				1	1
計		42	7		25	18	50

4 山岳別発生状況

依然として穂高連峰での遭難事故が多く、穂高連峰で全体の26件(61.9%)が発生しており、死亡事故全てが穂高連峰での発生となっている。

山域別		区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)				
				死亡	行方不明	負傷	無事救出	計
乗	鞍	岳	1				1	1
穂 高 連 峰	西	穂高岳	6			3	3	6
	間	ノ岳	2			2		2
	奥	穂高岳	8	2		2	6	10
	涸	沢岳	2	2		1		3
	北	穂高岳	2	2			2	4
	南	岳	3	1		2		3
	槍	ヶ岳	3			3		3
双	六	岳	3			2	1	3
弓	折	岳	1			1		1
抜	戸	岳	6			5	3	8
笠	ヶ	岳	5			4	2	6
計			42	7		25	18	50

5 原因別・遭難者の性別発生状況

遭難者に占める男性の割合が40人(80.0%)と、圧倒的に高くなっている。

原因別		区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)					遭難者の性別(人)	
				死亡	行方不明	負傷	無事救出	計	男性	女性
転 落 ・ 滑 落	つまづき、スリップ		5	1		5		6	5	1
	バランス崩し		1			1		1	1	
	浮き石を踏む		1			1		1	1	
	雪庇踏み抜き		1			1		1	1	
	原因不明		5	3		2		5	5	
転 倒	つまづき、スリップ		9			9		9	7	2
	バランス崩し		4			4		4	3	1
発 病	尿管結石		1				1	1		1
	高山病		1				2	2	1	1
	その他		1				1	1	1	
悪	天候		3	1		1	1	3	3	
疲	労		4				7	7	4	3
道	迷い		3	1			2	3	3	
そ の 他			3	1		1	4	6	5	1
計			42	7		25	18	50	40	10

6 遭難者の山岳会所属状況

遭難事故42件のうち、山岳会等に所属していない未組織登山者による遭難事故は29件(69.0%)と高い。また、ツアー、ガイド登山中の遭難事故も発生している。

所属別	区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)					比率(%)
			死亡	行方不明	負傷	無事救出	計	
社会人山岳会		10	2		7	4	13	26
ツアー及びガイド登山		3			2	1	3	6
未組織		29	5		16	13	34	68
合計		42	7		25	18	50	100

7 登山届の提出状況

登山届提出義務化になり、はじめて年間運用となったが、遭難事故の半数以上で登山届が提出されているものの、未提出も11件を数えた。

今後も周知徹底に努め、継続的な提出呼びかけを行う必要がある。



提出別	区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)				
			死亡	行方不明	負傷	無事救出	計
提出		31	3		23	7	33
未提出		11	4		2	11	17
合計		42	7		25	18	50

8 遭難パーティーの人数構成状況

単独、2人パーティーの少人数で遭難事故が21件(50.0%)と多くなっているが、ツアー登山やガイド登山中の大人数パーティーでの救助要請もあった。

構成別	区分	発生件数 (件)	遭難者数(人)				
			死亡	行方不明	負傷	無事救出	計
単独		12	3		9	5	17
2人		9	2		5	6	13
3人		6	2		3	6	11
4人		3			3		3
5人		1			1		1
6人～10人		2			2		2
11人以上		3			2	1	3
合計		42	7		25	18	50

9 遭難事故の届出状況

遭難者本人から携帯電話による救助要請がある他、別の登山者の目撃情報、家族や山岳会からの届出等がある。



届出方法	通 報 者							計(件)
	本人	同行者	一般登山者等	山小屋	家族・職場	警備隊員	所属山岳会	
携 帯 電 話	10	10	4					24
加 入 電 話							1	1
口 頭	5	1	2		2			9
アマチュア無線								
その他(目撃等)			4	2		2		8

注・遭難者の届出方法で計上

10 遭難者の年齢別状況

依然として中高年層での遭難事故が多発しており、遭難者50人のうち、40人(80.0%)が40歳以上となり、特に60代で最も多発した。

最年少は20歳(学生)で脱臼、最高齢は90歳(無職)の行動不能であった。

年齢別	遭 難 者 数 (人)				計(人)	
	死 亡	行方不明	負 傷	無事救出		
20 歳 未 満					10 (20.0%)	
20 代			2	1		
30 代	1		3	3		
40 代	3		2	1	40 (80.0%)	
50 代	2		3	5		
60 代			7	6		
70 歳 以 上	1		8	2		
計	7		25	18	50(100%)	



11 遭難者の職業別状況

遭難者の高齢化に伴い、無職者層の事故が最も多発している。

職業別	区分	遭難者数(人)				計
		死亡	行方不明	負傷	無事救出	
会社役員・会社員		2		9	2	13
国家公務員・公務員						
医者・看護師						
大学教授・教員・保育士						
自営業・家業手伝い		2		1		3
団体職員・派遣社員				2	1	3
専門学校生・学生				1		1
パート・アルバイト						
無職・主婦		2		10	8	20
その他		1		2	7	10
合計		7		25	18	50

第3 山岳警備活動の状況

1 山岳警備活動の概況

北飛山岳救助隊(岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会附置機関、以下「救助隊」という。)と、岐阜県警察山岳警備隊飛騨方面隊(以下「警備隊」という。)は、共に年間を通して新穂高登山指導センターの常駐、山岳パトロール、穂高常駐活動等を実施し、山岳遭難事故の防止を図るとともに、大型連休や遭難事故の発生が予想される時期には、岐阜県警察航空隊(以下「航空隊」という。)の応援・協力を得て、遭難防止に資する山岳情報の収集と遭難者の救助活動に当たっている。

2 安全登山指導活動の状況

(1) 新穂高登山指導センターの開設

北アルプス岐阜県側登山口に当たる新穂高温泉において、各登山シーズン中「登山指導センター」で常駐し、登(下)山届の受理、分析、山岳情報の収集・提供等登山者に対する安全指導を実施した。

また、穂高常駐、山岳パトロール、遭難事故出動時における無線中継や各種情報の収集・伝達等に当たる前進基地としての役割を果たしている。



(2) 山岳パトロール活動

登山者の最も多い夏山シーズン中には、北アルプス岐阜県側を中心に山岳パトロールを

実施し、登山者への安全指導、登山ルートの整備、遭難者の救助活動等に当たっている。

また、夏山警備期間中のみならず、ゴールデンウィークや紅葉期、年末年始等に随時山岳パトロールを実施し、遭難事故防止を図った。

(3) 穂高常駐活動

警備隊は、穂高岳山荘を拠点として、特に険しいルート・地形を持ち、遭難事故の多発する穂高連峰の常駐パトロールを実施し、登山者の安全指導と遭難者の救助活動等に当たるほか、救助隊は穂高連峰のパトロールを実施している。

活動別	区分	延活動日数 (日)	延活動人員(人)		
			救助隊	警備隊	計
登山指導センター常駐		63	122	117	239
山岳パトロール		30	81	40	121
穂高常駐		44		154	154
計		137	203	311	514

3 山岳遭難救助活動の状況

遭難事故1件当たりの平均出動日数は1.29日、平均出動人員は12.5人(救助隊1.2人、警備隊11.3人)となっている。

年別	区分	延出動日数 (日)	延活動人員(人)		
			救助隊	警備隊	計
平成23年		63	112	423	535
平成24年		65	123	574	697
平成25年		64	97	582	679
平成26年		69	89	734	823
平成27年		54	51	475	526

【主な活動事例】

- 1月11日、単独(男性・52歳)でクリヤルートから笠ヶ岳へ入山したが、降雪で登頂を断念し引き返したものの、雷鳥岩付近で更なる降雪から行動不能となり、家族を通じて救助要請。

しかし、折からの悪天候でヘリでの救助が見込めず、翌早朝から警備隊と救助隊で地上からの救助活動を開始、現場付近までは年末からの降雪でかなりの積雪量となっていたため捜索は難航し、警備隊は12日に現場の手前でビバークを余儀なくされた。

13日になり、天候も回復傾向にあると航空隊も加わり捜索していたところ、雷鳥岩の北側ピークから笠方面の地点で発見、しかし、現場上空が乱気流で近



づけず、数回に渡りヘリからの救助を試み、ようやく遭難者を救助し病院へ搬送。



- 3月28日、3人パーティーで滝谷でのクライミングを終え、それぞれがバラバラで下山中、2人(男性・26歳、37歳)は滝谷避難小屋へ到着するも、1人(男性・46歳)が戻らないため下山した2人が登り返し付近を探したところ、雄滝付近のシュルンドでトレースが消失しているのを発見し救助要請。

翌日から航空隊と警備隊で捜索を開始したが発見に至らず、その後も継続して上空からの捜索を行っていたが、7月2日に遭難者の友人と登山道の整備に訪れていた槍平小屋オーナー親子が、雄滝から約300メートル下流地点で遺体を発見、その後、航空隊と警備隊により収容。

- 4月30日、2人パーティーで涸沢岳西尾根を下山中、先を歩いていた1人(男性・36歳)が、蒲田富士を越えた辺りで稜線上から滑落したため、もう1人(男性・46歳)が救助に向かおうとして約100メートル滑落し負傷。

その際ザックと携帯電話を下方へ落とし、本人も怪我を負ったが自力で這い上がり、助けを求めるために下山、右俣林道の工事現場の作業員に助けを求め、そこから救助要請。

通報者はそのまま救急車で運ばれ、滑落した遭難者は現場へ急行した航空隊と警備隊により、ブドウ谷の標高2,100メートル付近で発見、日没間際で救助活動にも危険が伴うことから、翌早朝から救助活動を再開し遺体を収容した。

- 5月22日、槍ヶ岳に登山中の一般登山者が、右俣沿いにおいて雪に埋もれている人を発見、現場付近が電波が通じない場所だったため、下山中の別の登山者に通報を依頼し、山小屋を通じて高山署へ一報が入った。

発見された遭難者(男性・31歳)は、前年の年末から行方不明となっており捜索願が出されていた人物であった。

- 7月14日、単独(女性・90歳)で西穂山荘へ向けて登山中、体力不足のため行動不能となり、登山道上でビバークしようとしていたところを小屋入りのため入山していた西穂山荘従業員に発見され、歩けないことから背負い搬送にて山小屋に収容。

年齢的にも自力歩行が困難と思われたため、通報を受けた警備隊が、翌朝、西穂山荘から背負い搬送を開始して登山指導センターに収容。

- 8月13日、5人パーティーで南岳新道を下山中、1人(女性・37歳)が、南岳新道の標高2,400メートル付近でスリップして滑落し、頭部と両足を負傷したため同行者から救助要請。

天候が悪く、ヘリコプターでの救助が見込めなかったため、警備隊と救助隊、救助隊山小屋班(槍平



小屋従業員)が現場へ急行、遭難者は自力歩行が可能であったことから付き添いながら下山し病院へ搬送。



- 8月14日、行方不明の遭難者を捜索中の航空隊と警備隊が、ジャンダルム下の岐阜県側斜面で遺体(男性・77歳)を発見。

発見後、すぐさま警備隊と航空隊で収容活動にあたり、捜索中の遭難者であると思われていたが、持っていた所持品から別人と判明、届出を受けて先に捜索していた遭難者は長野県側で滑落しており、遺体にて発見された。

岐阜県側で発見された遭難者は、前日に穂高岳山荘に宿泊しており、西穂へ向けて縦走する計画であったことから、縦走中に何らかの原因で滑落したものと思慮される。

- 8月20日、単独で焼岳を下山中の登山者(男性・59歳)が、午後8時頃になって「焼岳を下山中に道に迷った」と自ら110番通報。

通報が夜間であり、本人の居場所も不確かであったことから、安全な場所でビバークするよう指示し、早朝から捜索を開始した。

しかし、悪天候で航空隊が出動できず、本人の申し立てた場所と違うことから捜索は難航したが、昼近くになって黒谷付近で遭難者を発見するも、滝の反対側にいたため接触できず、滝の上部へ引き上げる方法を取り救助。

本人は怪我もなく自力歩行可能であったため、警備隊が補助しながら徒歩にて下山。

- 9月29日、2人パーティーで滝谷をクライミング中、第4尾根の比較的なだらかな場所に到達し、1人が稜線まで来たところでもう1人(男性・49歳)が居なくなっていることに気がつき、付近を捜索するも見あたらず、北穂高小屋に戻り救助要請。

通報を受け早朝から警備隊と航空隊で捜索を開始、ほどなくしてC沢右俣奥壁直下付近で遭難者を発見。

しかし、気流が悪く隊員が降下できないことから、現場近くで隊員を降ろし徒歩にて向かわせる方針に変更、落石の巣であり厳しい現場であったことや、気流が安定しないことから収容活動は難航したが、午後3時過ぎにようやく遺体を収容した。



4 ヘリコプターの活用状況

近年の山岳遭難救助活動には、遭難者の一刻も早い救助活動はもちろん、現場の隊員達にとっても、安全で迅速な救助活動に必要不可欠である。

平成27年中の遭難事故における出動回数は、42件中28件(66.6%)と、過半数の遭難事故に出動し、多くの命を救っている。



年 別 \ 区 分	発生件数(件)	ヘリコプター出動件数(件)	出動率(%)
平成23年	51	27	52.9
平成24年	43	34	79.1
平成25年	52	40	76.9
平成26年	51	40	78.4
平成27年	42	28	66.6

※1件で1出動として計上

5 山岳遭難救助訓練の状況

遭難現場での救助活動は、悪天候や夜間に及ぶこともあり、人力での救助活動も必然となっていることも事実である。

そのため、そのような厳しい現場において安全で迅速な救助活動を実施するため、救助隊や警備隊は合同訓練を実施する他、縦走訓練、ヘリコプターとの合同訓練、飛騨警察署神岡警部交番庁舎壁面の人工登はん壁を活用した訓練等を実施し、個々の救助技術の向上や登はん技術の向上を図っている。



	種別	実施月	日数	訓練場所	訓練内容
救助隊	冬山	3月	1	神岡警部交番人工登はん壁	登はん訓練
	夏山	5月	1	鍋平・槍平小屋付近	航空隊合同訓練
警備隊	冬山	1月	3	西穂高岳・源氏山他	航空隊合同訓練・雪上訓練
		2月	4	西穂高岳・小鍋谷他	航空隊合同訓練・雪上訓練
	春山	3月	5	神岡警部交番・滝ヶ洞山他	登はん訓練・雪上訓練
		4月	5	神岡警部交番・烏帽子岳他	登はん訓練・航空隊合同訓練
		5月	4	乗鞍岳・流葉山他	新隊員訓練・登はん訓練
	夏山	6月	5	笠ヶ岳・槍ヶ岳他	縦走訓練
		7月	2	黒部五郎岳・立山他	縦走訓練
	秋山	9月	1	右俣谷	航空隊合同訓練
		10月	3	焼岳・奥丸山他	縦走訓練
		11月	1	流葉山	縦走訓練
冬山	12月	5	神岡警部交番・小鍋谷他	登はん訓練・雪上訓練	

6 広報活動等の状況

広 報 活 動	概 要
山岳情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 登山指導センター常駐、山岳パトロール、穂高常駐活動等を通して気象情報、山岳情報を提供 航空隊が撮影した航空写真及び雪崩マップを山岳情報として登山指導センターで活用 デジタルサイネージを使用しての広報活動 インターネットでの山岳情報の提供及び、オンラインから提出される登山届を受理
「山岳白書」の発行	<ul style="list-style-type: none"> 各県山岳連盟及び関係機関、団体に送付
山岳情報等 広報紙の発行、配布	<ul style="list-style-type: none"> 登山届提出義務化に伴うキャンペーン活動 県に協力し、北アルプス登山マップを作成し各関係先で配布 登山届提出一声運動の実施
啓蒙ポスター、 チラシの掲示配布	<ul style="list-style-type: none"> 啓蒙チラシ等を指導センター、登山口の登山ボックス、観光案内所に掲示、配布 英語・韓国語の登山届用紙を、登山指導センターに常備
山岳遭難事故 発生場所図面の活用	<ul style="list-style-type: none"> 山岳遭難事故の発生状況を地図上に示し、登山指導センター前の掲示板に表示
危険地域登山者に対する 指導・警告活動	<ul style="list-style-type: none"> 県山岳遭難防止対策協議会が危険地域に指定している「滝谷」「穴毛谷」への登山者に対する指導・警告を登山指導センターで実施
小中学校登山への 指導員の派遣	<ul style="list-style-type: none"> 高山市北稜中学校の清掃登山に指導員を派遣 同栃尾小学校の親子登山に指導員を派遣 同本郷小学校の親子登山に指導員を派遣
その他	<ul style="list-style-type: none"> 山岳雑誌「山と溪谷」、「岳人」への資料提供 テレビ、ラジオ、新聞等広報媒体への資料提供



7 手記



道迷い遭難

岐阜県警察山岳警備隊飛騨方面隊長

高山警察署 谷口 光洋

携帯電話のバッテリーに注意

平成24年8月3日、午後4時過ぎに奥飛騨交番へ「白出沢を登ろうとしていた登山者が疲れて動けない。登山者は道に迷って二晩ビバークし、携帯電話の通じる稜線近くまで登って110番したもので、心臓に持病を持っている。」との連絡が入る。

天気が良かったので、早速、航空隊へヘリの要請をすると共に、遭難者の携帯電話のバッテリーが切れると発見できないことがあるので、遭難者に対して一旦電源を切り、ヘリの音が聞こえたら電源を入れるように伝えてもらい、当直のK隊員と鍋平ヘリポートに向かった。

過去のできごと

携帯電話のバッテリー切れについては、苦い記憶がある。

平成21年5月4日、単独で恵那山に登った人が「下山中に道に迷って自分の位置が判らないが、怪我もなく元気である」との110番通報があり、管轄する中津川警察署から我々に出動の応援要請があった。

当日は天候不良で出動できず、翌5月5日に鍋平からヘリに搭乗し、ガスの中、恵那山一帯を5時間以上搜索したものの、遭難者を発見できなかった。

また、バッテリー切れで遭難者とは交信できない状態であった。

翌日から雨でヘリは飛ばず、天候の回復した5月8日、午後からヘリと共に搜索を再開し、1時間後に登山道から遠く離れた沢の中で死亡している遭難者を発見、収容した。

遭難者は、110番した時のGPSからの地点とは、谷筋も違う離れた地点で死亡しており、ザックも持っておらず、登山靴も脱げており、素足で下山していた事が判った。

後日、遭難者の携帯電話を確認したところ、110番通報後に家族や友人、会社等に何度も電話を架けており、バッテリーの残量が無くなっていたことが分った。

これについては、110番を受理する警察官も説明をするが、遭難者は心細くなって、ついつい方々へ電話をしてしまうらしい。

もし、ヘリが来た時に交信することが出来たのなら、間違いなく救助することが出来たであろうと思うと、本当に残念なことであった。

遭難者も道に迷って下山が遅れたら、連絡するところがたくさんあると思うが、予備バッテリーを持たない場合、最悪の事を考え110番で聞



かれた事だけを話して救助を要請し、ヘリが救助に来ることが判ればバッテリーを保護するため電源を切って、ヘリの音が聞こえたら電源を入れることも1つの方法である。



救助活動

午後5時頃に鍋平ヘリポートにヘリが到着、遭難者については2日前に新穂高を出発し、白出沢ルートから穂高岳山荘に行く予定だったとのこと。

常駐隊員が穂高岳山荘にいたことから、上から白出沢ルートを徒歩で搜索させ、私とK隊員はヘリで白出沢付近の荷継沢と、天狗沢を搜索したが発見できなかったので、パイロットが遭難者に何回か電話したところ、何とか交信が出来るようになり「今ヘリが近づいてきた」とのことであった。

遭難者からのヘリの高さ、方向、距離等を聞きながら搜索していると、Hパイロットが「あそこで手を振っている」と遭難者を発見、見ると赤いジャケットの男が手を振っていた。

しかしその場所については難所で、切り立っているジャンダルムの飛驒尾根の途中である。年配の人がよくあそこまで登れたものである。普通の登山者なら急な斜面で道に迷ったとしても、決して登っていくような場所ではない。

発見すると、ヘリを遭難者に近づけて救助方法を打ち合わせ、風の状態やホイストの降下地点等を確認する。

日没も迫っていることから、隊員1人だけを遭難者の2メートル南側に降ろし、レスキューハーネスを装着させて、隊員と2人同時に吊り上げることにした。

再び電話で、遭難者に対して燃料を給油して10分後に戻ることを伝え、鍋平ヘリポートに戻る。

すぐに給油するとともに、重量を軽くするためK隊員を降ろし、私とパイロット2人、整備士2人で現場に向かう。

5分もあればレスキューハーネスを装着させて、私と一緒に吊り上げられるだろう。

遭難者の上空でヘリがホバリングすると、ドアを開け、ホイストの先端をハーネスに装着する。ハーネスに緩みはないか、カラビナの安全環を締めたかなどを確認して、セーフティーを外し準備完了。一番緊張する時である。

ホイスト操作をするK整備士に親指を立て合図をして下降開始。ここまで来たらクルーに任せるしかない。

周辺から判断して、ホイストは長さ40メートル位、ほとんど回転することなく30秒くらいで着地ポイントに到着。まったく位置がずれていない。

上空でピタリと静止するパイロットの技術、揺れを調整してホイストをポイントへ導く整備士の息が合わなければ、思うような場所には着地出来ないものだ。

天候によっては大きくホイストが揺れて、何度も着地をやり直すこともあるが、この時は素晴らしくピンポイントの着地であった。

足場を確認して、自己確保してからホイストのフックを外し、右手の手首を回して合図しホイストを巻き上げさせる。

ヘリが去っていったので位置を確認すると、目の前にジャンダルムの飛騨尾根が迫っているではないか。

遭難者は70歳位の大柄な男性で、ワークブーツにジーンズといった楽な格好で1メートル四方位の岩にしがみついており、よくこんなところまで登ってきたものである。

遭難者はお礼を言うが、話しに応ずることなくザックから救助用レスキューハーネスを取り出して装着させるが、ここでバランスを崩して転落させたら大変なことになるので、座らせたまま装着し男性のザックを私のザックに入れ準備完了。

無線を呼ぼうとしたところ、西側からヘリが近づいてくる。

薄暗くなって日没も近いことから上空で待っていたのだろう。

無線を使わず、ヘリに向かって進入するように手で合図すると、ヘリが下からせり上がるように近づいてきて、すぐにホイストの先端が到着したので、まず男性のカラビナに装着し、次に私のカラビナに装着し、念のため2人のカラビナがきちんと装着されているか確認し、手で「OK」の合図をすると、ホイストはぐんぐん上昇した。

バランスが良かったので、大きな揺れや回転することなく機内に収容され、セーフティーを取り、ホイストを外すとドアが閉まる。一番嬉しい時間だ。

遭難者の顔を見ると、何度も頭を下げられる。

レシーバーを付けると、パイロットから「ご苦労様でした。」と声がかかる。

遭難者は元気で、汗をぬぐって外を見ると、暗くなってジャンダルムがシルエットにしか見えなくなっていた。

遭難者は持病のある人で、今日中に収容でき本当に良かったと思う。

ヘリは鍋平で急いで給油し、遭難者を高山市の病院へ運んで帰隊した。

それにしても道に迷ったとは言え、あんな険しい所まで登って行った事には驚いたが、道も判らず、2日間も命がけで歩いたのならば、私達の想像もつかない遠い所や普段行かないような所にまで行くのが、道迷いの遭難者かも知れない。

今後は、何日も発見できないような行方不明者は、相当広い範囲で捜索する必要があることを改めて感じた。

終わりに

今回、遭難者が携帯電話の通話が可能な地点まで着いたことと、バッテリーが残っていたため、通話で自分の位置を伝えることができ、素早く発見することが出来たが、携帯電話が圏外であったり、ヘリが使えない時間であったのなら、今回の遭難者は発見出来なかったかも知れない。

くどいようであるが、携帯電話のバッテリー切れにはくれぐれも注意して頂きたい。



第4 岐阜県山岳遭難防止条例

1 登山届提出義務化

岐阜県では「岐阜県北アルプス地区及び活火山地区における山岳遭難の防止に関する条例（岐阜県山岳遭難防止条例）」を施行し、北アルプス登山に登山届の提出を義務付けています。



○ 登山届の提出方法は下記を参照して下さい。

登山届提出方法	提出先
<p>登山届ポストへの投函 ↓ 【登山届を提出したら】 備え付けの「届出済証」 を持参して登りましょう</p>	<p>(対象エリア内設置場所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新穂高登山指導センター窓口 ・新穂高ロープウェイ西穂高口駅構内 ・西穂高口登山届出所 ・左俣林道ゲート付近 ・右俣林道起点 ・笠ヶ岳登山口(クリヤ谷ルート) ・焼岳登山口駐車場 
<p>オンラインによる届出 ↓ 【登山届を提出したら】 システムからの返信画面 を印刷・保存し持参 して登りましょう</p>	<p>岐阜県北アルプス 山岳遭難対策協議会 ホームページ</p>  <p>コンパス</p>  <p>※「コンパス」は(公社)日本山岳ガイド協会が運営する登山届受理システムです</p>
<p>関係機関への郵送、 FAX、メール等 ↓ 【登山届を提出したら】 登山届の写しを持参し て登りましょう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県防災課 ・岐阜県警察本部地域部地域課 ・高山警察署及び飛騨警察署並びに、両警察署管内の交番、駐在所 ・岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会 <p>オンライン、様式のダウンロード、メールに添付する方法が選択できます。</p>

2 条例に関する問い合わせ先

- ・岐阜県防災課 TEL 058-272-1131
- ・岐阜県北アルプス地区及び活火山地区における山岳遭難の防止に関する条例について
岐阜県庁ホームページ
<http://www.pref.gifu.lg.jp/kurashi/bosai/sangaku/11115/jourei.html>

平成27年 山岳遭難事故発生一覧表

別表1

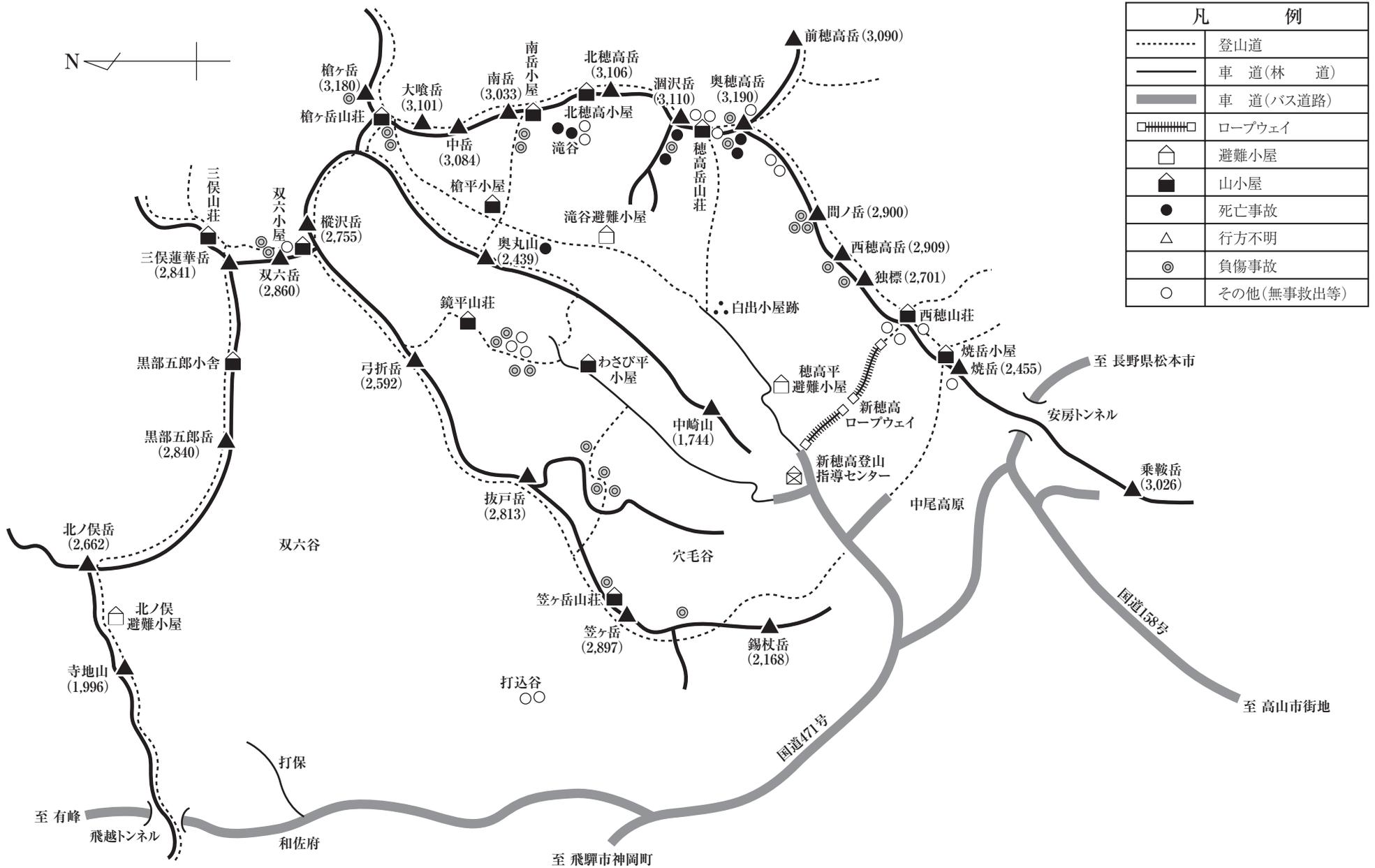
発生月日	発生場所	所属山岳会名	構成人員	届出	年齢	性別	職業	住所	死傷別				原因	遭難状況	出動状況					
									死亡	不明	負傷	その他			日数	警備隊	救助隊	その他	ヘリ	
1	1月10日	南岳	無所属	単	無	31	男	弁理士	東京都	1				道迷い	槍ヶ岳へ登山中の一般の登山者が、右俣沿いにおいて埋もれている登山者を発見、下山中の別の登山者に通報を依頼し、山小屋を通じて通報があったもの。登山者は、昨年末から行方不明となり家族から捜索願が出たもの。登山届は無く、槍平小屋を目指している途中にルートを見失い凍死したものと思慮される	2	20			警察
2	1月11日	笠ヶ岳	社会人山岳会	単	有	52	男	会社員	神奈川県			1		悪天候	1月8日から単独で笠ヶ岳へ向けて入山したが、降雪で笠ヶ岳登頂を断念し引き返していたが、雷鳥岩付近で身動きがとれなくなり救助要請	3	38	8		警察
3	1月13日	槍ヶ岳	無所属	単	有	28	男	派遣社員	神奈川県			1		その他	単独で西穂から槍ヶ岳へ向けて縦走中、母親に「食料がナッツとチョコレートしかない、顔面が凍傷している」等と電話を入れ、以後、音信不通となったことから母親から救助要請	1	10			警察
4	2月21日	西穂高岳	〃	単	有	44	男	会社員	茨城県			1		滑落	単独で西穂高岳へ向けて登山中、独標とピラミッドピークの間付近で雪庇を踏み抜き、約100メートル滑落。目撃していた別の登山者が救助要請	1	11			警察
5	3月28日	北穂高岳	〃	3	無	46 26 37	男 男 男	自営業 会社員 会社員	福岡県 愛知県 東京都	1		2		その他	3人パーティーで滝谷でクライミングをした後、3人バラバラで下山、2人は滝谷避難小屋に到着したが、1人が下山していないことから登り返して確認したところ、雄滝付近で滑り後が消失していたため救助要請	10	93			警察
6	4月11日	西穂高岳	ツアー登山	16	有	53	女	保険外交員	千葉県			1		発病 (尿管結石)	ツアー登山で入山し、西穂山荘へ到着したところ腰痛と嘔吐で動けなくなり救助要請	2	11			警察
7	4月30日	涸沢岳	社会人山岳会	2	有	45 36	男 男	水道工事業 会社員	長野県 石川県	1		1		滑落	2人パーティーで涸沢岳西尾根を下山中、先を歩いていた遭難者が蒲田富士を越えた辺りで稜線上から滑落、救助に向かおうと現場付近でもう一人も滑落し、ザックと携帯電話をさらに下方へ落としたため、稜線まで自力で這い上がり、助けを求めため下山し救助要請	2	27			警察
8	7月14日	西穂高岳	無所属	単	有	90	女	無職	兵庫県			1		疲労	単独で西穂山荘へ登山中、体力不足と疲労から動けなくなり登山道上でピバークしようとしていたところ、小屋入りする西穂山荘従業員に発見され、西穂山荘へ背負い搬送で収容され、翌朝警備隊員にて救助	1	4	3		
9	7月25日	奥穂高岳	〃	単	有	73	男	無職	静岡県			1		滑落	単独で笠ヶ岳から西穂高岳へ向けて縦走中、ジャンダルム付近でルートを見失い、浮き石を踏み岐阜県側へ約15メートル滑落。別の登山者が目撃し、遭難者本人も自力で稜線まで這い上がったが右腕が動かないため、目撃者を通じて救助要請	1	16			警察
10	〃	〃	ツアー登山	13	有	61	男	会社員	東京都			1		転倒	ツアー登山で上高地から入山、涸沢を経由し奥穂高岳山頂付近で休憩の後下山を開始しようとしたところ、岩に足を引っかけ転倒し左手首を骨折。他の遭難で現場付近に居た警備隊と付近をパトロール中の長野県遭対協救助隊員で山荘まで下山させていたところ、ガスが引いてきたためヘリにて救助	1	13	2		警察
11	7月27日	〃	社会人山岳会	2	無	34 39	女 男	弁護士 弁護士	ノルウェー ノルウェー			2		その他	2人パーティーで西穂高岳から奥穂高岳へ向けて縦走中、馬ノ背付近で1人が恐怖心から動けなくなり、通りがかった別の登山者が山小屋へ通報。常駐中の警備隊員と穂高岳山荘従業員で救助	1	4	2		
12	7月30日	西穂高岳	無所属	単	有	68	男	無職	栃木県			1		滑落	単独で西穂高岳から奥穂高岳へ向けて縦走中、間ノ岳西穂側直下の斜面で濡れた岩で足を滑らせ約3メートル滑落し、左膝を負傷し歩行困難となり救助要請	1	8	6		警察

13	7月28日	奥穂高岳	〃	2	有	53 47	男女	無職 無職	東京都 東京都			2	発病 (高山病)	2人パーティーで上高地から入山し、途中、体調不良ながらも穂高岳山荘へ到着し宿泊したが、翌朝になっても症状が改善されないため診療所で診察を受けた所、肺水腫で重傷と診断を受け救助要請	1	12	3		警察	
14	8月2日	間ノ岳	〃	単	有	55	男	会社員	石川県			1	滑落	単独で穂高岳山荘から西穂高岳に向けて縦走中、間ノ岳付近でなんらかの原因で滑落。目撃した別の登山者から救助要請。	1	13			警察	
15	〃	抜戸岳	社会人山岳会	4	有	67	男	無職	静岡県			1	転倒	4人パーティーで笠ヶ岳から下山中、笠新道で石につまずき転倒、その後歩いてみたが痛みが取れないため同行者が救助要請。左足腓骨骨折。	1	14		8	警察	
16	8月3日	南岳	無所属	単	有	38	男	会社員	静岡県			1	転落	単独で南岳からの下山中、梯子を下りてくる際に、ザックが重くてバランスを崩し約2メートル滑落。自力で小山で下山し救助要請	1	2				
17	8月6日	抜戸岳	〃	2	有	60	男	会社員	千葉県			1	滑落	2人パーティーで下山中、登ってくる登山者に道を譲るため谷側に寄ったところ、草の上で足を滑らせ滑落し救助要請。骨盤骨折で重症	1	8			警察	
18	8月5日	双六岳	〃	4	有	73	男	無職	京都府			1	転倒	4人パーティーで縦走中、濡れた木で足を滑らせ転倒し右足首を負傷。三俣山荘診療所で受診し、双六小屋まで自力で下山したものの、その後歩行困難となり救助要請	1	7	0	8	警察	
19	8月8日	抜戸岳	社会人山岳会	3	有	71	女	無職	群馬県			1	転倒	3人パーティーで笠ヶ岳から下山中、1人が小石につまずき前のめりで転倒し右頭頂部と口を負傷。自力歩行可能であったため、同パーティーの介助を受けながら下山し、救急車で搬送	1	1		1		
20	8月8日	檜ヶ岳	ツアー登山	19	有	67	男	会社員	愛知県			1	転倒	ツアー登山で檜ヶ岳からの下山中、浮き石に足を取られて転倒し右足首を捻挫。自力で白出まで下山し、救急車で搬送	1	1				
21	8月9日	奥穂高岳	無所属	3	有	64	男	団体職員	茨城県			1	疲労	3人家族で上高地から入山し奥穂高岳へ向けて登山中、父親が「自分のペースで歩きたい」と申し出たため、残り2人で穂高岳山荘に到着。しかし、日が暮れても父親が到着しないことから救助要請	1	3				
22	8月9日	笠ヶ岳	〃	2	無	55	女	自営業	千葉県			1	転倒	2人パーティーで笠ヶ岳山荘から下山中、テント場付近の雪渓で足を取られて転倒し、左手首を骨折。歩けたものの痛みが酷いため救助要請	1	15	2		警察	
23	8月10日	檜ヶ岳	大学山岳部	10	有	20	男	大学生	広島県			1	転倒	山岳部で檜ヶ岳からの下山中、飛騨沢で石を踏んで転倒、その際、左膝を捻り負傷したが檜平小屋まで下山したところで歩行困難となり救助要請。右膝蓋骨脱臼等により重傷	1	7	1	9	警察	
24	〃	抜戸岳	無所属	3	無	69 68 67	男女 女	無職 無職 無職	奈良県 奈良県 奈良県			3	疲労	3人パーティーで下山中、1人が疲労で行動が遅れ日没となり、ヘッドランプが1つしかなく、夜間行動できる力量もなく疲労が蓄積して行動不能となり救助要請	1	4	1	3		
25	8月12日	笠ヶ岳	〃	5	有	68	男	無職	愛知県			1	転倒	5人パーティーで笠ヶ岳から下山中、笠新道で石につまずき転倒し、勢いで約4メートル転落し頭部を負傷。同行者と共に自力下山し、救急車で搬送	1	5		4		
26	8月13日	南岳	〃	4	有	37	女	会社員	大阪府			1	滑落	5人パーティーで南岳から下山中、スリップして滑落し頭部と両足を負傷し救助要請	1	11	5	3		
27	8月14日	奥穂高岳	〃	単	無	77	男	無職	茨城県	1			滑落	別の遭難者を捜索中に、ジャンダルムの岐阜県側で遺体を発見。奥穂高岳から西穂高岳への縦走中に滑落したものと思慮される	1	8			警察	
28	8月18日	笠ヶ岳	社会人山岳会	単	有	72	男	無職	千葉県			1	転倒	単独で笠ヶ岳に登山中、山頂手前で転倒した際に肋骨を強打。翌日、痛みが耐えながら下山していたが体力が無くなり杓子平でビバーク。翌日、歩き始めたが痛みが酷く休んでいた所、通りがかった別の登山者に声をかけられ、指導センターへ通報				1	1	

29	8月20日	焼岳	無所属	単	無	59	男	不明	静岡県			1	道迷い	単独で焼岳からの下山中、中の湯側へ下山予定が道に迷い救助要請。通報が夜間であり、正確な位置が分からなかったことから早朝から出動し正午頃に遭難者を発見、自力歩行が出来たことから隊員と共に下山	1	8			
30	8月20日	抜戸岳	〃	単	無	73	男	無職	岐阜県			1	転倒	単独で小池新道付近を下山中、左足が岩の隙間に入り込みバランスを崩して転倒し左足を骨折。通りがかった登山者に救助要請を依頼したもの	1	2	2		
31	8月31日	弓折岳	社会人山岳会	7	有	72	男	無職	兵庫県			1	転倒	7人パーティーで小池新道を下山中、ストックが破損してバランスを崩し転倒、左足を骨折し救助要請	1	12			警察
32	9月13日	奥穂高岳	無所属	3	有	52	男	会社員	長野県	1			滑落	3人パーティーで西穂高岳から縦走中、ジャンダルムから下る途中に1人が滑落。同行者から救助要請	2	13	3		警察
33	9月14日	間ノ岳	〃	2	有	64	男	介護士	滋賀県			1	滑落	2人パーティーで西穂高岳から奥穂高岳へ向けて縦走中、間ノ岳と西穂高岳との中間付近でスリップして約100メートル滑落。目撃していた別の登山者が救助要請	1	11			警察
34	9月21日	奥穂高岳	〃	単	有	62	男	施設職員	広島県			1	道迷い	単独で西穂高岳から奥穂高岳へ向けて縦走中、体力不足から奥穂高岳山頂に到着したのが日没後となり、霧で登山道が分からなくなって自ら山荘へ救助要請。	1	3			
35	9月22日	双六岳	〃	3	有	37	女	臨時職員	鳥取県			1	転倒	家族3人パーティーで双六岳から黒部五郎岳へ縦走し、双六小屋へ向けて下山していたところ、ぬかるみに足をとられてスリップし右足首を捻挫。痛みをこらえて双六小屋まで下山したが、痛みがひどくなったため救助要請	1	12			警察
36	〃	抜戸岳	〃	3	有	74	男	無職	岐阜県			1	転倒	3人パーティーで双六小屋から下山中、岩に足をひっかけ転倒し頭部を岩で強打。立つことはできたものの、両手がしびれてきたため、通りがかった別の登山者を介し救助要請	1	12			警察
37	9月24日	笠ヶ岳	社会人山岳会	2	無	59 65	男 男	薬剤師 無職	愛知県 愛知県			2	疲労	下山予定日を2日過ぎても連絡が無いことから、所属山岳会が高山署へ通報。捜索を開始していたところ、途中で連絡が入り本人と確認。体力不足から行動が遅れたもの。	1	9			警察
38	9月29日	北穂高岳	〃	2	有	49	男	自営業	熊本県	1			転落	2人パーティーで滝谷第4尾根を登はん中、稜線までの中間地点まで来たところで同行者がいないのに気がつき、付近を捜索したが見つからなかったため救助要請。滝谷C沢右俣で死亡している遭難者を発見	1	16			警察
39	10月12日	西穂高岳	無所属	2	有	43	男	会社員	大阪府			1	滑落	夫婦2人パーティーで西穂高岳へ向けて登山中、独標を過ぎた所で男性が約20メートル滑落、通行人に手伝ってもらい稜線まで這い上がり救助要請	1	9	5		警察
40	10月14日	双六岳	〃	単	有	57	男	無職	宮城県			1	発病 (角膜炎)	単独で双六岳方面を縦走予定であったが、2日に持病を発症し右目が開かなくなり、1日停滞して様子を見たが良くならず下山するには危険が伴うと判断し救助要請	1	10			警察
41	10月25日	涸沢岳	〃	単	無	59	男	無職	東京都	1			悪天候	穂高岳山荘から涸沢岳へ向かっていた登山者が、山荘から150メートルほど行った地点で登山道上で仰向きに倒れている男性を発見し通報	1	11	6		警察
42	12月5日	西穂高岳	〃	単	無	75	男	無職	神奈川県			1	悪天候	午後3時に登山を開始したが、途中より吹雪で身動きがとれなくなり救助要請をする。	1	1	1		
遭難事故発生件数42件 / 遭難者数50人										7	0	25	18		56	495	51	37	

平成27年 山岳遭難事故発生分布図

別表2



編 集 後 記

昨年8月、山と溪谷社より「岐阜県警レスキュー最前線」が出版されました。

警備隊員の現場での活動はもちろん、関係者、家族などが手記を寄せており、他の隊員の手記を読んで、目頭が熱くなったり、突っ込みを入れてみたり、一喜一憂しながら読みました。

今回、手記を読んで、初めて知ったこと分ったことも多く、普段からみんなと一緒に仕事をしていても、隊員達はあまり多くを語らない事がよく分りました。

この本では、私も手記を書かせて頂いていますが、いつも全力で救助現場に立ち向かう隊員達の、違った一面を知ってもらえたら幸いです。

是非、読んでみて下さい。

山 岳 白 書

発 行 平成28年3月
発 行 者 國 島 芳 明
編集責任者 中 島 美 奈 子
発 行 所 岐阜県北アルプス山岳遭難対策協議会
URL <http://www.kitaalpsgifu.jp/>
Mail info@kitaalpsgifu.jp
印 刷 所 高山印刷株式会社

